



稜南乃風



←2年の飽田優月さんと1年の糸田葵さんがボランティアで通級教室壁面に春の花の飾りを作ってくれました。廊下を通るたびに心が温かくなります。

県新人コンクールで 吹奏楽部 見事金賞受賞

2月23日(金)天皇誕生日に、玉名市民会館で行われた「2回熊本県吹奏楽中学校新人コンクール」において、本校の吹奏楽部が、昨年度に続いて2年連続で金賞に輝きました。

このコンクールは、1、2年生だけでの演奏の力を競い、夏の吹奏楽コンクールに向けての意欲付けを目標として熊本

県吹奏楽連盟が昨年度から開催している新しいコンクールで、今回も県下各地から多くの中学校が出場していました。

稜南中学校は、「アルバマー序曲」という名曲を演奏し、迫力のあるすばらしい出来ばえの発表でした。感動しました。

この結果を励みにして、また練習に励み、夏のコンクールでも金賞や九州大会を目指してほしいと思います。

おめでとうございました。



本日令和5年度修了式 新たなる学年へ ステップアップ

本日3月22日(金)に1、2年生の「令和5年度修了式」が行われました。式では、各学級を代表して、1年1組の松崎美月さん、1年2組の栗原透さん、1年3組の大塚紗希さん、2年1組の山田結聖さん、2年2組の宮崎浩輔さん、2年3組の江寄隼仁さん、なかよし2組の小林優生さんが修了証を受け取りました。

次に、作文発表に移り、1年2組の木下朋美さん、1年3組の今里昊さん、2年2組の渡辺千愛さん、2年3組の吉田弥憲さん、なかよし2組の長井英斗さんがはつきりした言葉で堂々と発表してくれました。内容的にも充実しており、この一年で学んだこと、印象に残ったこと、友達から受けた思いやりの心など、それぞれに温かい気持ちのこもった発表でした。1年間、みんなで協力しながら、お互いに知恵を出し合ってがんばることができました。来年度もそれぞれの目標に向かって全力でがんばってほしいと思います。

地域伝統で 「稜南乃風」

本年度も熊日新聞の「若者の広場」に本校生徒の作文が何度も掲載されましたが、2学期末に掲載された1年の栗原透さんの作文には、地域の伝統を自分たちの力で盛り上げたいという願いが込められていました。地域伝統への取組を「稜南乃風」として発信

した栗原さんの作文を最終号で紹介します。ちなみに、栗原さんは、10月29日(日)に天草市民センターで行われた「天草福祉祭り」で発表し、会場を感動で包んでいました。ぜひご一読ください。

「地域の祭りを継承する大切さ」
1年2組 栗原透

小太鼓が「トン、トン、トン」大太鼓が「ドン、ドン、ドンドン」僕の住む亀川地区で熊野坐神社祭に向けて毎年9月に午後7時から9時まで響いている太鼓の練習の音です。昔は小4から小6の男子児童が叩き手だったようですが、地域の児童数が減ったことにより、僕は小3から叩き手に参加するようになりました。

小さな体で大きな太鼓を叩く力があるのか、練習を続けることができるのかなど不安いっぱいでしたが、初日に上級生が迎えに来てくれ、地域の大人の人たちが優しく教えてくださったおかげで、初めての太鼓の本番では達成感を味わうことができ、次の年は自分が下級生に教えてあげたいと思っていました。しかし、コロナ禍で祭は3年間中止となり、その間に僕は小学校を卒業しました。

久しぶりに行われた今年の祭では、小学生で太鼓を叩いた経験のある者がいなかったので、中1や中2が叩き手に加わりました。小3で教えてもらった僕の中の太鼓の記憶はすぐに蘇り、大きな満足感を味わうことができました。

僕は、地域の祭はその土地の風習や歴史を映す貴重な財産だと思います。それは単に太鼓の音だけが引き継がれるのではなく、祭を守ろうとするたくさんの人たちの熱い思いが受け継がれていくのだと思います。しかし、地域の祭を継承することは容易なことではありません。僕は経験者の一人としてこの思いを下級生にバトンタッチしたいと思います。そして、祭の継承によって地域の絆が強まり、活気が戻ってほしいと願っています。

御めし 学校便り「稜南乃風」も本年度は、本号で閉じさせていただきます。毎回じっくりとお読みいただいたことに心から感謝致します。ありがとうございました。 倉田

